

## カンキツ「天草」の樹上果実と収穫果実の形質変化

[要約] 「天草」は 1月下旬まで樹上に残しておくとう糖度は高くなるが、果皮色が退色し、酸含量も減少しにくい。

長崎県果樹試験場・常緑果樹科	専門	栽培	対象	果樹類	分類	指導
----------------	----	----	----	-----	----	----

平成8年度長崎県果樹試験場業務報告

### [背景・ねらい]

「天草」の収穫適期を明らかにするため、収穫時期を変えて収穫した果実と樹上に残した果実の形質を調査した。

#### 収穫時期と調査時期

---

収穫時期(月.日)	12.18	1.9	1.30
-----------	-------	-----	------

調査時期(月.日)	12.20	1.10	1.30
-----------	-------	------	------

---

### [成果の内容・特徴]

- ①糖度は遅くまで樹上に残した果実が高い。12月18日に収穫した果実も 1月30日になると糖度が高くなる(表1)。
- ②樹上に残した果実の酸含量はほとんど減少しない。収穫後、貯蔵した果実では減少する(表1)。
- ③果皮色のa値は、1月9日調査では収穫した果実、樹上に残した果実とも12月18日時点より高くなる。1月30日調査では、樹上に残した果実のa値は低くなる。特に、陽光面で退色が激しい(表2)。

### [成果の活用面・留意点]

果皮色と酸含量の推移を確認しながら適期収穫に努める。

[具体的データ]

表1 「天草」の収穫時期と果実形質

収穫 <sup>z</sup> 時期	調査 時期	果肉歩合 (%)	糖 度		酸含量		糖酸比
			平均	偏差 <sup>y</sup>	平均	偏差 <sup>y</sup>	
12.18	12.20	84.1	10.8	0.68	1.38	0.17	7.9
12.18	1.10	85.2	10.6	1.05	1.01	0.18	10.7
12.18	1.30	82.4	12.2	0.78	1.04	0.16	11.9
1.10	1.10	82.2	11.8	0.63	1.44	0.15	8.3
1.10	1.30	81.9	12.4	0.76	1.20	0.16	10.5
1.30	1.30	81.1	12.8	1.02	1.38	0.15	9.4

<sup>z</sup> 収穫期以降は常温貯蔵

<sup>y</sup> 標準偏差

表2 「天草」の収穫時期と果皮色（赤道部）

収穫 <sup>z</sup> 時期	調査面	a 値					a / b 値		
		12.18	1.9	1.30	増減 <sup>1y</sup>	増減 <sup>2x</sup>	12.18	1.9	1.30
12.18	陽光面	25.6	31.6	31.5	6.0	5.9	0.44	0.58	0.59
"	日陰面	31.0	36.1	35.8	5.1	4.8	0.54	0.67	0.66
1.9	陽光面	25.6	28.4	30.4	2.8	4.8	0.45	0.50	0.55
"	日陰面	31.4	35.0	33.5	3.6	2.1	0.54	0.63	0.61
1.30	陽光面	27.5	28.9	26.4	1.4	-1.1	0.47	0.49	0.45
"	日陰面	29.8	33.1	31.9	3.3	2.1	0.65	0.59	0.56

<sup>z</sup> 収穫期以降は常温貯蔵

<sup>y</sup> 1.9測定値 - 12.18測定値

<sup>x</sup> 1.30測定値 - 12.18測定値

[その他]

研究課題名：中晩生カンキツの特性調査並びに栽培試験

予算区分：県単

研究期間：平成8年度（平成6年～10年）

研究担当者：濱口壽幸

発表論文等：平成8年度 長崎県果樹試験場業務報告。